

幼稚園健康保育の實際

愛育研究所 齋藤文雄

吾國に於て國民保健ニ云ふ問題が今日の様に大きく取り上げられた事はいかなる時代にも曾つてなかつた事である。勿論この問題は單に壯丁や正にこれから壯丁にならんとする者だけの問題では無く、子供も壯者も老年者も皆な齊しく取り上げられなければならない。青年以後にあつては自らの自覺があるから鍊成も樂である。國民學校乃至は幼稚園に於てはそうは行かぬ。指導者の意志一つによつて之を鍊成しなければならぬ。

指導精神。そう云ふ意味で今日では單に病氣に罹らない様な子供の身體を作るに云ふ丈けでは、指導精神としては少し不足な所がありはしないか。同じ筋肉の力を養ふにも背筋力や握力計の高い事ばかりを目指すべきでは無い。艱苦に耐へ得る體力、これこそ指導精神として大切な事では無からうか。艱苦に耐へ得る體力は肉體の強力な力が無ければ駄目である。同時になに藁に頑張る鋼鐵の様な堅い精神力が必要である。肉體に精神が相まつて築き上げる艱苦

に對する忍耐力、これを目的としてこそ健康保育は本來の意味をもつもの云へるのではあるまいか。所が悲しい哉幼稚園児にはこんな指導精神等のみ込める者は一人も無いのである。すべては保母が誘導してゆかなければならないのである。その意味で園児の健康保育の成功するに否かは一に保母自身の精神力にかゝつてゐる。即ち保母が充分に指導精神のみ込んで、根氣よく園児を積極的に導いてゆく事だけが唯一の健康保育なのである。

指導方法。それでは保母はさう云ふ方法によつて實際的な効果を擧げる事が出来るであらうか。健康保育であるから醫者の指導に依るのが最も安全な方法であらうとは誰しも一應は考へられる所であるが事實は必ずしもそうでない。餘りに醫學的知識ばかりに頼り過ぎて足元を忘れる様では困る。たゞ一寸の隙も無い様な用意周到さで建てられた専門醫の計畫であらうとも、それが運行上保母の重荷になる様では困る。結局どんな彈丸でも通らぬ様な立派な

鐵兜を冠つたが扱て重くて歩けない云ふのでは困る。御馳走を澤山戴いても消化しなかつたら駄目なのであるから結局簡単な醫學的知識で保姆自身が消化しきれる程度のもので充分に健康保育の目的は達すべきであり又達し得ると思ふ。單に一時の物珍らしさから、單に報告のための醫學的統計を取らんが爲めの健康保育なら初めから行はない方がよろしい。

扱て然らば指導方法の目安をさう云ふ所に置くべきであらうか。

第一。自然に親しめ。その第一として私は自然に親しめ云ひたい。幼稚園の多くが今日では鞆繩を持ち、遊動圓木を持ち、ジャンゲルヂムを持ち、砂場を持つ。然し乍らこれが幼稚園の體裁であつてはならない。要は施設よりも工夫にありはしないか。お天氣のいゝ日にわざ／＼室の中でお唱歌の稽古をする様な事はせず、天氣がよかつたら子供は成るべく戸外で暮させたい。國民學校と違つて餘り混み入つた日課は無いのであるから必ずしも屋内でやらなければならぬ課業ばかりとも考へられない。暑さ寒さに應じて日光を適當に取り入れる。埃りの少ない外氣を餘計吸はせてやる云ふ事は勞せずして子供を丈夫にする。課業等七曜表で決めなくともお天氣で決める様な譯にはゆかないものかこつ／＼と思ふ。出来るだけ自然を利用して健康

指導をする云ふ意味で最少し遠足を奨勵したい。春三秋ばかりが遠足の期間を考へるに無理が出来る。暑からうが寒からうが遠足はやつてゆき度い。こうして絶えず足を鍛へておく。いざ避難云ふ時でも子供が／＼獨りで歩いて呉れたら保姆さんもお母さんもぎれ丈け助かるか解らない。足の鍛鍊から初めて段々手の筋肉や背中の筋肉云ふ風に遊戯から鍛鍊へ色々運動を工夫する。多少疲れが来る迄は／＼續ける。疲れたら休む。又初める云ふ風に順を追つて段々運動の量も種類も増加してゆく。

鍛鍊云ふ事は一步先を願ふ云ふ事なのであるから努力なしには出来ない。切角努力の途中心ない親の甘やかしの爲めに逆もぎりさせられる事は呉々も警戒すべきであらう。

第二に榮養の問題がある。この問題はごの子にも當てはまるには限らないが、時を決めて量も充分に、質も充分に、即ち色々な種類のものを必要量食べる。これだけで充分である。従つてこゝでは偏食が最も問題になる。偏食のある子は家庭と連絡を取つて極力矯正しなければならぬ。

第三に疾病豫防云ふ事がある。これはさうしても醫師の手を煩はさなければならぬ。よく現在行はれてゐる様な年一回の體格検査等凡そナンセンスである。發育の旺盛な、しかも色々な傳染病に犯され易い幼兒を年一回診てそ

れですつかり判る様な醫師は先づ居ない。それで満足する様な幼稚園當局であつては心細い。いやしくも囑託醫を置くなら毎日診察して貰ふ様にする。それが無い場合でも年四回位は是非とも必要だ。傳染病の豫防法を講ずるにしてもこれ位の回数がないと完全には行かない。これからの幼稚園は施設を誇りとする様では駄目で、いかによく家庭と連絡を取り、如何に屢々醫師の檢診をうけてゐるかの二つこそ眞價を決めるささへ考へる。

園児何人中今月の出席日數何日、無缺席者何人、病氣で休んだ者何人、家庭の都合で休んだもの何人云ふ様な事が家庭通信の第一主要記事でなければならぬ。若し通信簿のある幼稚園なら先づそう云ふことや、子供の發育やらを先づ一面で大きく取り上げる事、手工がさう、お唱歌がさう云ふ事はその次であつてよく無いか。そしてその月最も出席日が多く元氣であつたものには次の一ヶ月間一人には限らぬがきれいな健康章をつけさせる。來月は又改めて檢査の上優秀なものにつけさせる。そうするに子供もつけたいから努力して出席する。つけた者も取られたく無いから更に頑張る云つた工合にお互ひに努力する様にならう。要は家庭の御都合缺席を防止したい爲めであつて、切角保姆が骨折つて鑢へてくられても突然休まれては又元の黙阿彌になつてしまふ。兎に角防げる病氣は出来るだけ防ぎ

健康空路は直接航路であつて欲しい。病氣をされるさよくつても足踏み、悪ければ逆もさりするのであるからこの項目は輕視出来ない譯である。

次に第四の問題は健康教育である。先づ自分達の周圍から、お家から幼稚園迄必ず歩いて行く事、雨が降つても歩く事、汗をかいたら薄着にする事、度々手を洗ふ習慣をつける事、お晝寢は靜かにする事、お便所に行つたらよく手を洗ふ事等々書いてゐたらきりが無いが兎に角身體の清潔云ふ事を實踐させる様に導くのがこの項目の主眼であらう。

注意すべき事。

以上は健康保育指導の大綱の二三を述べたにすぎないがこれだけの項目でも注意すべき事が二つ三つある。

同じ様に健康保育を行ふにも集團とは云ひ乍ら多少の間外れを認めなければならぬ。先づ弱い子と強い子の事であるが生れつき虚弱な者は同じ量の鍛錬に耐えない。多少の特別扱ひを認むべきである。獨り子や甘やかし子も多少の例外となる。然しこれは性質上例外すべきではない。却つてこう云ふものこそ鍛錬すべきである。その事に關係して自分は何時も保姆の無力さを痛嘆する。甘やかし子が明かに團體生活の統制を破つても黙認せねばならぬ様な立場にある保姆がいかに多い事か。酒囊は締める時には締めてこそいゝ葡萄酒が搾れる。子供にも或る時は鞭が要

る。その鞭を保姆に與へるのは誰か。母親であつて欲しい
と自分は思ふ。

最後に保姆自身の保健知識の涵養である。既に保姆とし
て身を立てゝゐる以上子供に對する愛のないものは無い筈
である。問題は愛の上に建てられた科擧である。豫々子供
と云ふものゝ發育榮養と云ふ様な事に關しては注意して或
程度の知識を貯へる様に心懸くべきであらう。

結論

幼稚園の健康指導と云ふ事は結局母と保姆と園児が三位
一體とならなければ出来ない事である。そう云ふ意味で母
の會を適當に誘導してゆく事は是非とも保姆の先づ心掛く
べき事となる。先づ保姆が實行する前に母の會にその氣運
を醸成させその風向きを利用して得手に帆を擧げれば十二
分の効果を期待出来ると思ふ。子供にはさほどの程度の運動量
が鍛鍊となるのか、これは未だ文部省からの指示もないの
であるから自ら工夫して漸次その量を増大すべきであら
う。

要するに幼稚園に於ても先づ何を置いても健康と云ふ事
を主眼としてすべての計畫が打ち立てられなければ健康保
育の目的は達せられない。遠足の時、遊戯の時だけが鍊成
の時間であるを考へては間違ひであつて、いやしくも幼稚
園におけるあらゆる行動は健康保育に立脚したものであつ
て欲しい。

文部省 推薦幼兒圖書

タラウサン

〔黒崎義介 畫
渡邊哲夫 文〕

富士屋書店(日本橋區馬喰町四ノ九)廿錢

この繪本は、幼兒の健全な生活、明朗な生活を表出した
もので、潑刺とした健康さが滿ち溢れてゐる。四、五歳の
幼兒向きに適切

ゴクラウサン

〔新井五郎 畫
萩原博文〕

春陽堂(日本橋區兩國四四)十五錢

この繪本は、幼兒の生活の中から、大人への御手傳ひの
場面を取上げたもので、幼い子供達に勤勞生活の大事なこ
とを暗示してゐるところに意義がある。五、六歳から入學
前位の幼兒に適す

發行日遅延のお詫び

時局の波は出版界にもひし／＼と押し寄せて居り、それ
がいろ／＼の形になつて現はれて來て居ります。殊に人手
の不足はなか／＼補ひ難く、遂ひ一日發行の豫定が十日前
後になり、その爲に御叱責の御言葉やら御問合せやらをい
たゞいて恐縮いたして居ります。印刷屋の方でも出来るだ
け補充に努めると申して居りますから、何卒事情御汲み下
さいまして今暫く御容赦下さいませう御願ひ申上げま
す。
(編輯係り)